

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑貳番館 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	令和7年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4091601205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和7年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも高齢化、特に、高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開設し、地域の認知症を患割れた方々の住む『家』として事業を行っている。ご利用者が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らして行ける様に支援しており、日頃の散歩、地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の症状、身体の状況に応じ、互いが互いを必要とし、同じ『いえ』に住む疑似家族として生活を支援しており数名のドクター及び訪問看護ステーションなどの連携によりターミナル支援、お看取りの支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街の中にあり、大型店舗やバイパスも近く利便性がよい。2階建ての建物で駐車場も広く家族も来訪しやすい。駐車場は、避難時の集合場所や祭りの会場としても使用している。管理者等と職員は関係性がよく、明るい雰囲気は日々の支援にも良い影響となっていることが見受けられる。職員は利用者に寄り添いながら、地域の中で楽しく一日を過ごしてもらいたいとの思いを共有しながら日々の支援に関わっている。看取りの支援についても、家族と共に優しく丁寧最後まで関わりを持てるように関係職種と連携を図り取り組んでいる。今後も地域の福祉の拠点として発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の介護理念をフロア毎の朝礼時に全員で唱和し、一人一人がご利用者主体のケアを継続することに努めている	施設内の各所に理念を掲示し、唱和だけでなく職員に随時確認をしている。利用者に寄り添い家族の様に地域で暮らせるよう毎日のケアに努めている。管理者は理念を基本に、外出支援を職員全体で取り組む事を今年の目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所にご利用者と散歩に出かけ、地域の方との挨拶を行っている。校区の夏祭り、清掃活動などへの参加等を行い、地域との交流を行っている	利用者と共に回覧板や敬老の日にはお祝いの饅頭を近隣の方に配ったり、散歩中の庭の桜や季節の花の見学で会話を楽しんでいる。柿など果物や野菜の差し入れをいただくこともあり日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターの呼びかけにて地域の認知症利用者への対応講座などに参加し、他の事業所と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他事業所職員にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている	運営推進会議には、利用者と家族も参加することがある。情報共有や事業所の報告だけでなく質疑応答も丁寧に対応している。他事業所からの情報で、今年初めて秋祭りを取り入れ利用者や家族等から喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事長をしており、グループホームに限らず久留米市内の事業所の実情、行政としての指導力、協力関係を築けている	地域包括支援センターから、空き情報の確認や、事業所に校区の認知症講座の依頼等がある。市の担当者と運営推進会議で情報共有したり、電話で介護保険制度や事故報告等の相談をしたりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い職員の知識向上を行っている。日中は玄関、フロアの施錠はせず、職員の見守りを行っており、外に行きたいと希望されるご利用者には職員が付き添いを行っている	身体拘束についての研修計画が数回あり、職員は理解している。欠席者は資料と動画を視聴後、報告書を作成し理解を深めている。毎月のミーティングの中でも事業所全体で報告があり職員全体で日常のケアに活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内にて年に2回虐待防止と身体拘束適正化の研修を全職員参加にて行っており、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内にて、権利擁護の研修会を開き成年後見人制度や日常生活支援事業の事を学んでいる。制度が必要と思われる方へは説明を行う様に支援している。施設玄関に成年後見人制度のパンフレットを置いており、誰でも手に取れる様にしている	職員は入職の年数の差はあるが過去に於いての経験等や様々な研修の中で権利擁護に関する制度を理解をしている。制度について活用が必要となる場合は、橋渡しができる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の見学、ご家族との会話を重ね納得されたうえで入居して頂いている。入居後も外出や面会時に近況報告を行い信頼関係を築くようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけご家族との信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい関係を作っている。玄関にご意見箱を置き、意見を募っている。年に2回家族会を開催し日頃の様子をお伝えしご家族の意向をお聞きし反映できるようにしている	今年もホテルでの敬老会や母の日行事に家族等の参加があり、同時開催した家族会で意見を頂き対応している。家族とのLINEもあり、食事内容が知りたいとの要望で利用者の食事風景等を送信したことで安心してもらえた事例がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、運営会議を行っている。フロアミーティング、管理者会議での意見を会社に伝える様にしている。年1回、全体会議もしており全職員より意見を直接聞ける場を設けている	日頃の業務の中で管理者等に要望を伝えやすい環境があり、その都度に話し合いをして業務に反映している。職員は個人面談や会議だけでなく申し送りノート等を活用し意見を表明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	国籍、年齢、性別、経験を問わず採用しており、人柄、高齢者や認知症、介護に対する思いを重視している	男女問わず18～60歳代まで働いている。外国人3名を採用しており、寮なども整備している。介護経験に合わせ役割等にも配慮している。希望休暇や有給休暇も取りやすく、資格取得を目指す職員を支援する体制がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、社外の研修に参加し研修報告書を提出している。研修報告書をフロア内スタッフ同士で目を通し研修内容に対する思いを共有している	利用者に対する影響も踏まえて職員同士の呼称や会話についてもその都度に気を付けている。研修や人権に関する委員会を開催し、日ごろの課題について話し合い、職員は日々のケアの中で利用者へに尊厳を持って実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会が行う研修及び法人内研修には多くの職員が参加し日々トレーニングを行い、職員それぞれが自己の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・その他の研修会、運営推進会議・包括との地域ケア会議などを通じ、地域の他の事業所との交流に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、事前に訪問、面談を行い希望や困り事などをご家族やご利用者にお聞きしている。入居後は生活の様子や職員が感じた事をミーティング等で周知し、ご本人との関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご本人、ご家族に希望や不安事、困っている事などをお聞きし、生活する上でのご家族の意向や要望、今後の方向性など確認し関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する際に、本人様、ご家族、職員とで面談し、希望や意向を確認している。必要時には、訪問診療及び訪問にて歯科、眼科、マッサージ等必要とされるサービスを利用できる様に対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意思を尊重し、ご本人ができる事を職員と共に行っている。苑にいても家庭と同じ様に過ごして頂けるように努め、職員と良い関係が築ける様に取り組んでる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の課題などについて、ご家族と情報共有し、意向に沿える様にご家族様と共にご利用者を支えていける様にご家族との関係を密にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔より親交がある方との関係が途切れない様に面会などを通して維持できる様に支援に努めている。地域の行事などへも参加できるように支援している。	家族協力での外出支援や、職員は本人の馴染みの美容室等へ予約や送迎をしている。電話の取次ぎや携帯電話の使用、年賀状等のやり取りの支援をしており、これまでの関係継続ができるよう努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常会話やレク、日頃の行動で交流していける様に支援している。生活する中でトラブルが起きない様に話しをして納得されるのを確認し席替え等行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が退去後もご家族より相談等を受けた時は対応している。その後も年賀状等出しており良い関係性が続けていける様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子を観察しプラン作成時にご利用者、ご家族の意向や希望をお聞きして作成し思いを把握できる様に努めている	日常生活の中から発せられる言葉や、本人・家族から意向を聞き取り把握をしている。伝えることが困難な利用者には、出来るだけ多くコミュニケーションをとり触れ合い、寄り添うことにより表情などから読み取り意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族よりご利用者の生活歴等の情報を収集し、これまでの暮らし方、他サービス使用の利用経過など把握できる様に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定、生活様子の観察を行い記録に残し、現状把握に努めている。iPad、個別ノート、申し送り等で職員同士での情報共有を行っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者からの希望、ご家族より情報、意向や希望を取り入れ、ご利用者様にとって何が課題なのかを情報共有しケアプランを作成する様に努めている	職員は担当制で利用者を受け持ち、事前に本人・家族・主治医・訪問看護師等関係者・他職員と話し合いのうえ確認し原案を作成している。相談後にケアマネジャーが総括している。家族へは来訪時や電話、郵送にて確認を行っている。状態変化時は現状に即して見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、何か変化などあれば申し送りにて職員間で情報共有している。変更した方がよいことや何か改善点があればミーティングなどで話し合っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりのニーズに対し、職員同士や主治医、ご家族と状況を把握していきながら、それぞれにあったサービス内容を提供できるように支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で、ご利用者が、安心して、暮らしていけるよう、校区内、散歩、買い物、校区祭りでの地域の方々との繋がり等を職員が、見守り、声掛けし、機会作りをしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の希望を一番に家族の意向を踏まえ受診時には、付き添い、説明、サポートする。医師からの指示は、職員で共有する	家族の希望で事業所の協力医へ変更しており、半数の方は以前からのかかりつけ医を継続している。受診は原則家族対応で、困難な場合は職員が送迎している。本人の日々の情報は電話や手紙で伝えたり、往診時に口頭で伝えている。状況に応じ職員が受診に立ち合うこともある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活で異変に気づいたら、看護師に報告し、看護師より、主治医に報告し、より良い治療を受けれる様実施している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突然の入院等になった時は、速やかに、医師の指示に従い病院からの状況説明を職員で、共有し帰苑された時安心と安らぎのある苑での生活を過ごして頂く様支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、お看取りまで行なっているとご家族に説明している。重篤化、終末期には、全てを受け入れ、築き上げた信頼関係を根底に、声かけ、ボディータッチ、音楽を用い、ご利用者、ご家族の方に、安心して頂く様にしている	重度化、終末期には家族・主治医・看護師・職員が常に連携し今後予想されることを共有している。最近1年間で5人の看取りを行っており、看取り経験の少ない職員も、管理者や先輩職員のサポートを得ることが出来ている。家族の宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の主治医や看護師からの急変時の対応方法など、全職員に周知している。急変時の場合のマニュアルも準備しており、職員間で情報共有しながら急変時や事故発生時に備えている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災訓練を行っている。火災や地震が起きた場合、どの避難経路で避難を行うのか、また災害が来た場合はどのような方法で避難させるのかなど事前に災害への対策を行っている。また、敷地内に発電設備設置し災害時に停電した時にも電源を確保できるようにしている	年3回防災訓練を行い、2回は昼夜想定の方火災訓練を、1回は水害・地震訓練を実施している。事前に近隣住民のポストへ協力依頼の文章を投函し周知している。避難場所までの経路に椅子を置かせて頂くことの協力申し入れも行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念に基づき、ご利用者の尊厳を大切にし、心からのケアを行う事を念頭に、一人ひとりを尊重した言葉かけや対応を行っている。また、申し送りの際は、ご利用者の名前ではなく部屋番号で話したり、排泄時はご利用者の側で排泄の確認を行う事で、他ご利用者に悟られないようにしている	職員は利用者の人格を尊重し「さん付け呼称」を心がけている。入室時のノック、入浴や排泄時・軟膏塗布時の羞恥心の配慮を徹底している。書類や薬は鍵のかかるロッカーに保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者への声掛けを、思いや希望が自己決定できるような内容に心掛けている。意思疎通が難しい方には、表情や反応で感じ取れるように努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望と、生活のペース、体の状態を考慮し、生活して頂いている。散歩を希望されるご利用者には付き添い行い、体操や軽運動を拒否されるご利用者には無理強いをしない等、希望に沿うよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容室に来て頂き、ご利用者の希望を聞いて散髪して頂いている。更衣時はどの服が良いか選んで頂いたり、希望時にはメイクをしてさしあげたり、マニキュアを塗る等、おしゃれを楽しんで頂いている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を一緒に作ったり、お盆やテーブルを拭いて頂いたり、洗い物をして頂いたり等、ご利用者一人ひとりにできる事を協力して頂いている。好みに応じてパンを提供したり、飲み物を変えたり、ご家族に買って頂いたりして、食事が楽しくなるよう支援している	汁物は事業所で作り、副食は配食を利用することも多い。希望により毎朝パン食の方にも応じている。1日と15日は赤飯にしたり、季節の行事食や事業所の畑で利用者と一緒に育てたトマトやキュウリ等をだしたりしている。食後の片付けも本人の力を活かし行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの食事を考え1人ひとりの状態や食べる量、水分量を把握し、1日を通し記録を行い体調管理に努め支援を行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、入歯清掃の声掛けしご自分でできない方にはスポンジや歯ブラシにて介助を行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、ご利用者の排泄パターンを知りタイミングに合わせ声掛けやトイレ誘導し介助を行っている	排泄チェック表を利用し一人ずつの排泄パターンを把握したり本人の動作などから、トイレ誘導をすることで、パットサイズを小さい方に変更できた事例がある。パット使用数の減少にもつながり、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の排便記録をチェックし食事や水分量を毎日計測し便秘予防の対応を行なっている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を支援している。入浴のタイミングが合わない場合もあるが、できるだけ対応している。重度化の利用者の方も特殊浴槽で入浴していただいている	3日に1回は入浴できるように支援しており、タイミングが合わない場合も柔軟に対応している。本人の好みのシャンプーやリンスがある場合は各々持ち込み使用している。ゆず湯等季節の湯を楽しむこともある。職員は本人の話を傾聴したり一緒に歌を歌ったりして楽しい時間となる工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方お一人おひとりの生活のペース、体調を観察しその方に合わせ安心して安眠や休息ができるよう声掛けや支援を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師との連携を行い、薬剤師より用法容量の説明を受けている。全利用者の処方された説明書をファイル作成し、いつでも確認が出来るようにしている、薬の変更や頓服薬の記入を行い変化が分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の利用者様の生活歴や力を活かし洗濯物干しや野菜の皮剥きを手伝って頂いてる。 天候の良い日は散歩、日光浴など気分転換等の支援をしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望をお聞きし外出レクへの参加、地域の方々との交流をもとに夏祭りへ出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩に出かけている。買い物に出かけたり、お店の協力を得て外食レクを行った事例がある。敬老会で家族とともにホテルで食事をして非日常を味わったり、近所のお祭りで地域の方と交流したりと外出の機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持される大切さは理解しているが、ご利用者がお金を所持されることがトラブルに繋がるため、事務所で管理をしている。また、ご利用者が購入したい物があればご家族にお伝えし職員と一緒に買い物にお連れしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が希望があれば電話をかける手伝いをしている。 LINEでご家族に状態説明や写真を送っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に季節により野菜を栽培したり、フロアに花などを飾り、季節感を感じられる様にしていて、室温や湿度などにも気を配り快適な空間づくりに努めている	居間兼食堂にはソファや椅子等が置かれゆっくり過ごせる工夫がある利用者は。テレビ鑑賞や特技の裁縫をしたり、窓を開け外の空気を吸いながら景色を眺めたりと思い思いに過ごしている。採光もよく床暖房が効果的で室温は適度に保たれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや居室で過ごして頂いたり利用者自身が心地よく過ごせられるよう空間作りに努めている。 座位置はトラブルのないよう心掛ける		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご利用者の使い慣れた物やご家族と撮られた写真やご家族からの手紙、はがき等、ご利用者が色塗りして頂いたカレンダーを飾り居心地良く過ごせれるよう工夫している	室内は筆筒や椅子、テーブル等が持ち込まれ、壁には家族の写真や本人の作品を飾りつけている。自宅にいた時の手芸品を沢山持ち込み並べている事例があり、本人が居心地よく落ち着いて過ごせる工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることを継続して頂くためにADL低下防止に努めている。 配線、導線など障害物等ないように努め安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		